

<表1> 工場数、従業者数および製造品出荷額の推移

年次	事業所数	従業者数(千人)	出荷額等(億円)	対前年比(%)	指数
昭30	6,032	53.8	518	—	100
31	5,835	54.9	590	114	114
32	5,900	56.4	651	110	126
33	5,657	53.1	653	100	126
34	5,320	54.3	734	112	142
35	5,474	57.1	811	111	156
36	5,341	58.6	952	117	184
37	5,146	58.5	970	102	187
38	5,512	64.8	1,124	116	217

(注) 1 出荷額等は、名目額である。 2 指数は、30年の出荷額等を100とした数値である。
(資料) 工業統計調査

化学工業
すでに一部実現を見ている既存工業の
拡張を促進するとともに、荒尾臨海部に
おけるコークス工場の立地決定にともな
い具体化が期待されるCOG化学工業お
よび八代臨海部における新規企業の開発
を中心として、四十五年五七〇億円、五
十年七八九億円の生産規模に達するもの
と見込まれる。
石油石炭製品製造業

荒尾臨海部にコークス工場の進出が決
定しており、さらに将来八代臨海部にお
ける新規企業の誘致を促進することなど
によって、四十五年一四九億円、五十年
四〇五億円の生産規模に達するものと見
込まれる。
荒尾・大牟田地区の産炭地振興ともあ
いまって火力発電の開発を促進し、当面
荒尾臨海部におけるアルミ圧延工業およ
び将来のアルミ一貫工業の誘致によつて
四十五年三二億円、五十年二四八億円の
生産規模に達するものと見込まれる。
機械製造業
熊本地区を中心とする既存工業の拡張
を促進するとともに、現在、同地区を中
心として新規立地を見ている一般機械、
輸送用機械、電気機械工業の有明、八代
地区における新たな開発を促進すること
によって、四十五年三九六億円、五十年
六〇二億円の生産規模に達するものと見
込まれる。
食料品製造業
最近、缶詰、冷凍、飲料水など中小規
模企業の新規立地が目立っているが、さ
らに今後、熊本、八代地区を中心とする
新規企業の開発によって、四十五年六四
七億円、五十年八〇六億円の生産規模に
達するものと見込まれる。
パルプ、紙、紙加工品製造業
八代地区の既存工業の拡張および臨海
部における新規企業の開発を促進すると
ともに、熊本地区などの内陸部に進出を

見ている段ボールなど紙加工品工業の開
発によって、四十五年三二〇億円、五十
年三九五億円の生産規模に達するものと
見込まれる。
窯業、石製品製造業
八代地区におけるセメント、板ガラス
ならびに熊本地
区などに進出を
見ている生コン
クリート、セメ
ント二次製品お
よび耐火煉瓦な
どの新規企業の
開発によって、
四十五年一六七
億円、五十年二
六九億円の生産
規模に達するも
のと見込まれる
金属製品製造業
最近各地にお
いて鉄骨、製缶
工業の新規立地
を見ており、さ
らにこれらの開
発を促進するこ
とによって、四
十五年一六〇億
円、五十年二一
二億円の生産規
模に達するもの
と見込まれる。

<表2> 工業生産の見通し (単位: 億円)

区分	基準年次		昭37		昭45		伸び率(%)			昭50	
	金額(A)	構成比	金額(B)	構成比	金額(C)	構成比	C/A	C/B	左の年率	金額	構成比
総額	532.1	100.0	969.5	100.0	3,026	100.0	569	312	15.3	4,598	100.0
重化学工業	103.4	19.4	237.0	25.1	1,206	39.8	1,166	509	22.6	2,264	49.2
化学工業	72.1	13.6	176.4	18.7	570	18.8	791	323		789	17.2
石油石炭製品	3.3	0.6	2.3	0.3	149	4.9	4,515	6,478		405	8.8
鉄鋼	1.3	0.2	8.9	0.9	59	1.9	4,538	663		220	4.8
非鉄金属	x	—	x	—	32	1.1	—	—		248	5.4
機械	26.7	5.0	49.4	5.2	396	13.1	1,483	802		602	13.0
軽工業	428.7	80.6	708.4	74.9	1,820	60.2	425	257	12.5	2,334	50.8
食品	150.7	28.3	288.1	30.5	647	21.4	429	225		806	17.5
繊維	56.1	10.5	74.1	7.8	136	4.5	242	184		161	3.5
木材・木製品	86.1	16.2	129.6	13.7	233	7.7	271	180		293	6.4
パルプ・紙	74.3	14.0	100.4	10.6	320	10.6	431	319		395	8.6
ゴム・皮革	x	—	x	—	38	1.3	—	—		50	1.1
窯業	30.5	5.8	58.9	6.2	167	5.5	548	284		269	5.9
金属製品	5.9	1.1	14.6	1.6	160	5.3	2,712	1,096		212	4.6
その他	25.1	4.7	42.7	4.5	119	3.9	474	279		148	3.2

県産業のうちで、全国と比べて立ちおくれ
ているのは第二次産業だ。このための工業化
への努力はこれからも続けられていく……。
昨今の経済情勢から、合理化近代化をせまら
れている中小企業……。その他急速に発展す
る観光対策等々県計画がめざす方向とこれか
らの問題点は……

工業計画

★それぞれの立地条件を生かした工業の
開発促進と、資源、労働力の高度利用
がポイント。

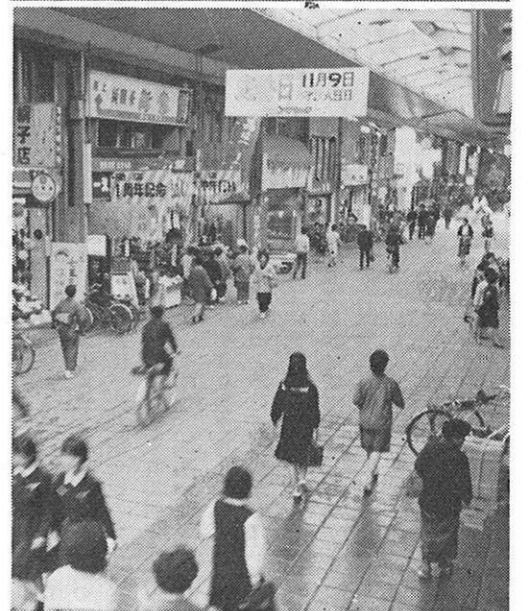
本県の工業生産規模は表1のとおり事
業所数については減少を見ながらも、従
業者数および出荷額は次第に増加し、昭
和三十八年の出荷額は遂に一、〇〇〇億
円の大台を突破し三十年の二倍を超える
一、二四億円の規模に達した。これは
三十五年に比べても四割近い伸びであ
る。

しかし、三十年以降の先進工業地帯に

特集

商工観光 の振興

<県計画各論シリーズ>



おける鉄鋼、石油精製、石油化学、機械
等の重化学工業部門の急速な発展に比
べて伸長の割合は低く、このため本県工業
生産の全国および九州に占める比重は、
三十年の対全国比〇・八％、対九州比九
・三％が、三十八年にはそれぞれ〇・四
％、六・八％と低下している。

主要施策の方向

将来の見通し

新産業都市の建設、低開発地域工業開
発地区に対する工業の地方分散など国の
地域開発政策の具体的な進展と、県、市
町村、民間におけるためみない工業化へ
の努力とが有機的に結合し企業立地の基

本的な環境条件の好転とあいまって、既
存企業の育成、振興、企業誘導、企業家
的意識の高揚などにとめることによ
り、工業生産の規模は、表2のとおり、
昭和四十五年において約三、〇〇〇億円
五十年において約四、六〇〇億円に達す
るものと見込まれる。
すなわち四十五年における工業生産の
規模は、三十七年の工業出荷額の約三・
一倍に伸び、業種構成においても、現在
七五％と主体をなしている軽工業の比重
が次第に低下し、重化学工業部門の比重
が二五％から四〇％へ高まり、工業化の
テンポはかなり早まるものと考えられ
る。
主な業種の四十五年および五十年にお
ける生産の見通しは次のとおりである。

なお、これらの工業は、地域別には新
産地域が従来通り開発の主導的役割を果
たすことになり、四十五年には全県出荷
額の八四％にあたる二、五二六億円の生
産規模に達するものと見込まれる。
以上の工業生産規模に見合う従業者数